

## 平成30年度 第3回JSR編集委員会

日時：平成30年9月29日（土）12：00～13：00

場所：TKP東京駅日本橋カンファレンスセンター106

出席：長谷川和宏（担当理事）、川口善治（委員長）、赤澤 努、大島 寧、鈴木亨暢、  
竹内大作、二階堂琢也、長谷 斉、福岡宗良 （以上、9名）

欠席：江幡重人、寒竹 司、高畑雅彦 （以上、3名）

陪席：CBR 宮内氏、編集分室 尾島氏、事務局 鈴木 （以上、3名）

### 報告事項

#### 1. 前回JSR編集委員会議事録について（資料1）

一同査収した。

長谷川理事が、前回委員会で提案された「優秀論文賞」については、10月11日の理事会で提案予定のため、その概略をある程度委員会内で検討しておいたほうがよいとして、一同で以下を検討した。

副賞金額・・・10万円～20万円くらいで2名ではどうかとの提案があり、西日本や腰痛学会が20万円であることなどから、「20万円2名」で理事会に提案することになった。

対象論文・・・他学会号では独自に賞を設けていることが多いことから、JSSR 特集号（1・2・5・9号）に掲載された原著論文のみを対象とすることになった。最初の選考は2019年の1・2・5・9号が対象。

審査員・・・JSR編集委員会のメンバー

審査方法・・・各号から優秀なものを1つずつ選んで最終的に2つに絞る案や、すべての論文の点数をつけて合計値を競う案、審査員が優秀と思う論文5つについてそれぞれ点数を付ける案などが出されたが、まずは理事会で賞の創設を承認されてから、次回委員会開催までにメール審議等で検討することになった。

告知方法・・・JSR学会誌にチラシを同封、HPへの掲載などで広く会員に知らせる。

賞の授与・・・JSSR 学術集会（初回は2020年の名古屋）の授賞式にて。

### 審議事項

#### 1. 編集の進捗状況（資料2）

編集分室作成の第9巻および10巻の発刊予定が示され、一同査収した。

とくに大きな遅れや問題等は発生していないとの報告がなされた。

2018年中に発刊予定の10月号（インスト学会号）、11月号（側弯症学会号）、12月号（西日本脊椎研究会号）についても進捗状況がそれぞれ述べられ、問題ないことを確認した。

## 2. 審査状況（資料3）

編集分室作成の JSSR 担当号における第9巻9号以降の論文審査状況が示され、一同査収した。

## 3. 広告の件（資料4）

川口委員長が、次年度（10巻）発刊の『JSR』の広告について、現在の申込状況を報告した。

表3と表3対向が空いていることについて、二階堂委員が新規でこの部分の年間金額を出せる業者を探すのは困難なため、現状のリストにある中で、アップグレードしてもらったほうがよいのではないかと提案した。

リストにある中で現在申し込みがない社については、

長谷川理事・・・メドトロニックソファモアダネック社、科研製薬、ジョンソンエンドジョンソン

川口委員長・・・久光製薬、メダクタジャパン

長谷委員・・・オリンパステルモバイオマテリアル

竹内委員・・・HOYA

鈴木委員・・・計算力学研究センター

へ声掛けをすることになった。

そのほかのリスト中で担当が決まっていないところは、川口委員長がそれぞれの委員に自動的に担当を割り振ることになった。

また、リストにない業者で

ニューベイシブ・・・鈴木委員

ロバートリード商会・・・竹内委員

も追加する。

さらに今年開催された第47回学術集会（主催校：大阪市大）での主転業者リストを鈴木委員から事務局へ送り、事務局からそのリストに掲載されている約80社へも、趣意書と広告申込書を送付することになった。

## 4. その他

### ・COIについて

長谷川理事が、COI委員会の小森委員長から、JSR 投稿時のCOI提出を早く義務付けてほしいとの依頼があったと説明した。

JSSR のCOI書類についてはすでにホームページに掲載されてダウンロードできるようになっているので、投稿規程にその書類を提出するように義務付ける一文を追加すればよいと考えるが、まずは川口委員長のほうでホームページに掲載されている書式がそのまま使用できるかを確認してほしいと依頼し、川口委員長が承知した。

また、定款等検討委員会が規定を作る役目を負っているため、投稿規程に差し込むべき文案ができれば、定款等検討委員会での査収を依頼することも確認した。

・EOS についての投稿論文の件

長谷川理事が、11月号の側弯症学会特集号に、側弯症の撮影に使用するEOSという機器についての総説論文を掲載したいと提案した。EOSを使用すると通常レントゲンを使用するよりも被ばく量を抑えられるが保険収載されていないため各施設での導入が進んでいない。社保委員会とも相談し、保険収載を検討してもらうにはわかりやすい和文論文が必要とされたため、早急に長谷川理事ほか数名で論文を執筆し査読を経て掲載を進めたいと説明した。一同検討の結果承認し、長谷川理事のほうで執筆を進めることになった。

・インスト学会編集委員長交代

竹内委員が、インスト学会の編集委員長を伊東学先生から竹内委員に交代することが、昨日のインスト学会理事会にて正式に承認されたと報告した。

・編集分室より

一般投稿が、10巻9号からの分について不足しているので投稿をお願いしたい。

・次回委員会

2019年4月のJSSR 学術集会にて予定

以上